

津波に備える

津波の速度は、水深が深いほど速く、水深が浅いほど遅くなります。しかし陸地に近い場所でもオリンピックの短距離選手並みの速さで迫ってきます。「たぶん大丈夫だろう」などと自分で判断せず、海岸付近で強い揺れや長時間の揺れを感じた場合や、津波警報などが発表された場合は、「遠くよりも高く」を原則に、一刻も早く最も近い高台などに避難しましょう。自宅が津波の危険性のある地域かどうかや、津波から逃げられる経路をあらかじめ考えておきましょう。

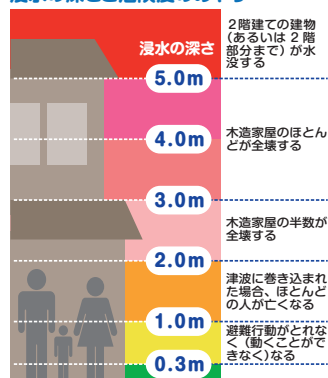
◆災害リスクや避難方法を確認しよう

実際に津波ハザードマップを見て確認してみましょう。

Check 1

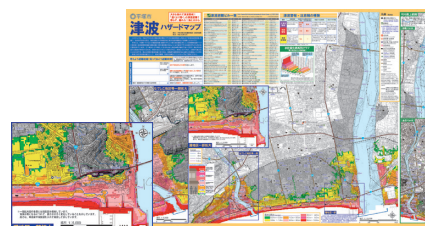
自宅の災害リスクを確認

浸水の深さと危険度のめやす



◎自宅は津波の危険があるか。

ハザードマップ上の色によって想定される浸水の深さがわかります。

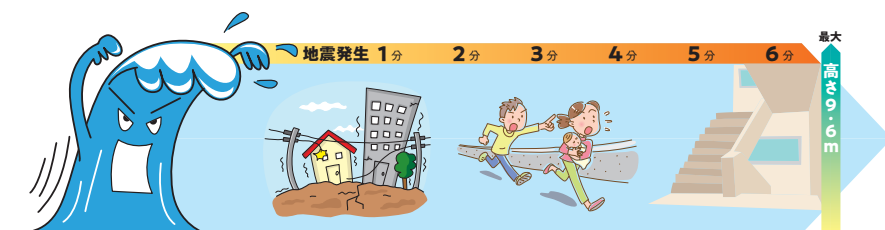


津波の威力

津波は、通常の波とは全く別物です。津波は、海水全体が塊で迫ってくるものであり、膝ほどの波だとしても大人でも立っていらなくなるほど想像以上の威力を持ちます。

避難する時は遠くよりも高く!

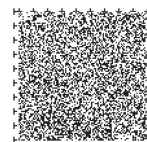
想定される最大クラスの津波は、地震発生から1分後には津波の影響が出始め、わずか6分で高さ9.6mの津波が平塚市の海岸に到達するとされています。海岸沿いにいるときに地震が発生した場合、遠くよりも高い場所へ避難しましょう。



津波警報・注意報について

種類	発表される津波の高さ		一般的に想定される被害と取るべき行動
	数値での発表 (予想される津波の高さ)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	10m超(10m～)	巨大	木造家屋が全壊・流失。人は津波に巻き込まれる。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高い場所に避難する。
	10m(5～10m)		
	5m(3～5m)		
津波警報	3m(1～3m)	高い	標高が低いところでは浸水被害が発生。人は津波に巻き込まれる。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高い場所に避難する。
津波注意報	1m(20cm～1m)		海の中では人は速い流れに巻き込まれる。小型船舶は転覆する。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。

※気象庁のウェブページを参考に作成



津波に備える

Check 2

避難方法を確認しよう

津波浸水想定区域外や高台へ!

「たぶん、大丈夫だろう」が簡単に命を奪います。

緊急地震速報

最大震度5弱以上の揺れ・最大長周期地震動階級3以上を予想した場合、緊急地震速報が発表され、テレビ、ラジオ、携帯電話などでお知らせされます。
※震源に近い地域では速報が間に合わない場合があります。

地震発生!



揺れが収まった!

「遠くより高い」安全な場所へ



津波の浸水想定区域外や
近くの津波避難ビルを目指しましょう!

まずは身を守る!! (シェイクアウト)



自宅で地震が発生した場合、机の下などに潜り、揺れが収まるまで動かず、自分の身を守りましょう。

(提供: 効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議)

- ◎海岸・河口の近くにいる場合は、津波の発生を警戒して避難を開始しましょう。
- ◎テレビやラジオ、防災行政無線などから正確な情報を入手しましょう。
- ◎非常持ち出し品を手元に用意しましょう。

津波が発生しそうな場合は

- ①すぐに、津波浸水想定区域外や津波避難ビル等へ避難しましょう。少しのためらいが命取りになります。
- ②周りに声を掛けながら逃げましょう。
- ③原則として、徒歩で避難しましょう(車では渋滞中に津波にのまれる可能性があるため危険です)。

安全な場所においても、気を緩めない!

津波は「1回だけ」とは限りません。何度も繰り返し襲ってくることもあります。最初の「第1波」が1番高いとは限らず、それ以降に最大の津波が襲ってくる可能性もあります。
警報が解除されるまでは、浸水想定区域には絶対に戻らない。

津波からの避難に役に立つ!

津波避難ビル

大津波警報が発表されたときから津波が引いて警報が解除されるまでの間、津波からの一時退避場所として、民間ビルや公共施設を指定しています。
※津波避難ビル一覧はP40～41へ



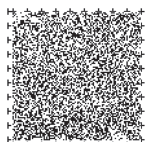
海拔表示板

より高い場所への避難や避難経路に役立つため、電柱や郵便局、公民館に海拔からの高さを記した海拔表示板を設置しています。



津波フラッグ

津波警報などが発表されたとき、「湘南ベルマーレひらつかビーチパーク by shonanzoen」では、海浜利用者に高台や避難場所への避難を促すため、赤と白の格子柄の津波フラッグを掲出します。



◆避難行動を考えよう

自身の災害リスクと避難方法について、確認したことを踏まえ、自分自身や家族がとるべき行動について、「いつ」「誰が」「何をするか」をあらかじめ時系列で整理した避難行動計画を考えましょう。地震発生時における行動のチェックリストとして、また、避難判断のサポートツールとして活用できます。

※津波の危険がない場所にお住まいの場合は、P16の地震編に記入してください。

～平常時（発災前）～

①家の中での確認事項

- 非常持ち出し品を準備し、持ち出しやすい場所に置く 家具の固定
感震ブレーカーの設置 ガラスの飛散防止 家の耐震化

②ハザードマップでの確認事項

- 津波ハザードマップで災害リスクの確認 避難先や避難経路の確認

避難経路は逃げ地図で確認!

「逃げ地図」は、道路を歩いて避難する際に、津波浸水想定区域内から区域外である避難目標ポイントまで最短経路を通ると、何分でたどり着けるのかを示した地図です。市ホームページではなでしこ・花水・港地区の逃げ地図を掲載しています。



(逃げ地図はこちら)

～発災時～

津波避難の3原則

・想定にとられるな

予想以上の災害が起こる可能性があります。「ここまで津波がこない」という想定にとられずに逃げましょう。

・最善を尽くせ

ここまで来れば大丈夫ではなく、そのときにできる最善の行動をとりましょう。

・率先避難者たれ

いざというときには、まず自分が率先して避難することが大切です。率先して逃げる姿を見て、他の人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことに繋がります。

①発災から避難開始までの注意事項

- 机の下に隠れるなど、身の安全確保（シェイクアウト）
すぐに津波浸水想定区域外、あるいは津波避難ビルへ避難
 ※強い揺れや弱くても長い揺れを感じた時は警報を待たずにすぐに避難

②在宅避難の可否確認（自宅の焼失や損壊がないか）

※在宅避難の可否確認は津波警報などの解除後に行う

⇒在宅避難した場合

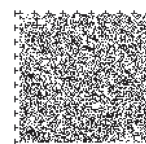
- 支援物資等の情報収集

⇒在宅避難できず、避難所に避難した場合

- 避難所運営活動に協力 ※避難所運営については、P23～24へ

③避難所運営活動に協力

- 情報収集 応急手当 環境整備 清掃
配慮を必要とする方（身体が不自由な方、外国人の方等）のサポート



(上記の確認・注意事項は一例です)